

東広島地域の共生社会をどう実現するのか

八本松自治協が福祉活動実践報告

東広島市社会福祉協議会
役員・評議員合同研修会

2月3日（月）、下見福祉会館において「東広島市社会福祉協議会役員・評議員合同研修会」がおこなわれ、八本松自治協から土久岡会長と信国福祉委員長が出席し、当地域で行われている地域福祉の実践報告を行った。



土久岡自治協会長

信国福祉委員長と社協八本松担当の岡村氏(右)

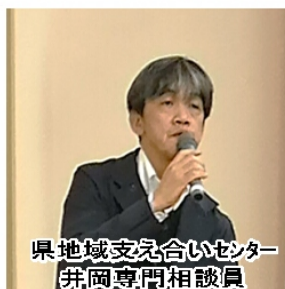
現在、東広島市では地域共生社会の実現に向け、地域の状況に合わせた福祉の仕組み作りが大きな政策課題となっている。そこで、福祉活動が活発な「あすか



あすか住民自治協 黒川会長

住民自治協（豊栄）」と「八本松住民自治協」で福祉の取組がどこまで進んでいるか、その実践現状が報告された。
あすか住民自治協（会長 黒川浩明氏）からは、自治協内に福祉部会を設立し9年が経過。この間、住民の方が孤立しないための工夫や意識的な訪問と専門職との連携を基本に福祉活動を行ってきた。しかし、現在役員の高齢化が進んできたのが大きな課題と報告された。

八本松住民自治協からは、八本松南地域の最近の福祉活動が紹介された。介護予防については、サロン活動（年間参加者延べ1000人）で対応が図られ、そのスタッフが地域福祉の原動力となっていること。生活支援では、地域の関係団体等で構成する地域コミュニケーション連絡会をベースに多くの方の協力を得て「見守り活動」が開始され、さらに、その活動の中から生活支援のニーズを掘り起こし「お助け隊」を発足。現在、見守り活動との両輪で「お互いさまのつながりづくり」に取り組んでいると報告された。最後に、広島県地



県地域支え合いセンター 井岡専門相談員

域支え合いセンター専門相談員の井岡仁志氏が「東広島地域の共生社会をどう実現するのか」と題し講演。

井岡氏は「本日は、只今発表された事例を東広島全域に広げるキックオフの場。東広島地域の共生社会（支え手側と受け手側に分かれるのではなく誰もが役割を持ち活躍できる社会）を築いていただきたい」と述べた。そのため、「（1）住民の皆さん誰もが参加できる福祉活動の促進（2）身近な圏域で多様な悩みごとの相談に応じ、専門機関と連携できる体



「誰も孤立させない地域！東広島地域の共生社会をどう実現するか」と熱く語る井岡氏（中央左）

制づくり（3）専門機関が協働して複合化した課題を解決する体制づくりが必要。これを具体的に進めるため、新たな事業が国レベルで検討されている。地域の皆さんとしっかり協議され、行政とも連携してゆくの为民間福祉のおおきな役割」と強調し、研修会を終了した。

人生の終末を自分らしく過ごす

終活セミナー「いきいき人生会議」in八本松 開催

生前整理 相続について 専門家が分かりやすく説明

自治協 委員会
福祉 委員会



「福祉は、ゆりかごから墓場まで」とセミナーの趣旨を話す信国委員長(中央)

自治協福祉委員会（委員長 信国武登）は1月18日、19日、25日の3日間八本松西、宗吉第一、八本松南、日興苑、下組、八本松地域センターの6会場で「アイフィットグループゆりかご」（代表 渡邊一史）を招き、共催で「終活セミナー」を開催した。

主催した「アイフィットグループゆりかご」は、世代交代で生ずる相続、生前整理、不動産、葬儀、墓などの終活の相談に応えるそれぞれのプロフェッショナルが集まった集団。一人でも多くのお年寄りが自分らしく安心して暮らせる社会を目指し、市内各所でセミナー等の活動を行っている。

このセミナーでは、生前整理等の3部門について具体的な例を挙げ、分かりやすく説明された。特に相続について説明した渡邊代表は、「相続のトラブルをなくすため、早めに専門家に相談し、親の主導権のもと生前のうちにより話し合い、道しるべと感謝の思いを伝える生前会議を持つことが重要」と力説した。

参加者アンケート結果 (%)

受講の目的についてお聞かせください		どの内容に興味をもちましたか			
将来の備えのため	35	生前整理	37		
情報収集している	27	相続・成年後見人	32		
配偶者、子ども、孫のため	22	葬儀	19		
不安解消のため	17	お墓・埋葬	13		
終活セミナーはいかがでしたか		今後受講したいテーマ			
良かった	60	介護	28	エンディングノート	11
とても良かった	33	医療	18	保険	8
普通	6	税金	18	リフォーム	1
		空家対策	17		



「相続」について説明する渡邊代表



「生前整理」について説明する森田氏



「葬儀・お墓」について説明する竹中氏